

令和8年度

鴨島東学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自ら学びたくなるような魅力ある授業の実践

校長

堀川 昌宏

学力向上推進員

山城 雄児

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

相互の授業参観や校内研修で研究授業を行うなど様々な場面で取り組み状況を把握する。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒が多い。また、与えられた課題に対してまじめに取り組める生徒も多い。 ●新たに学習した内容と既習内容とのつながりが捉えられず、身につけた基礎的・基本的な知識・技能を応用する場面に課題が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、それを使ってより発展的な内容に挑戦できる。 ・授業の振り返り等を通して、学習内容の理解度を把握するとともに、その向上を目指すことができる。 ・身に付いた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・生徒の習熟に合わせて、個別最適化した学びを行うために、課題の内容や出題の仕方を工夫する。 ・「めあて」に迫る授業展開を行うとともに、めあてと対応した振り返りを行う。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行い、学校全体で授業改善を実施する。 ・授業の進度にあったプリントを自作し、朝の学習の時間に実施することで、基礎的な知識・技能の定着を図る。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友だちの意見をしっかり聞いたりできる生徒が多い。 ●読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力が弱く、長い文章を読むことも苦手である。 ●自分の考えが相手に伝わるように文章を整えたり、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書いたりすることが苦手である。	・資料から課題に必要な情報を読み取り、順序立ててまとめることができる。 ・読書を通して、長い文章を読むことに慣れ、様々な表現を身に着けることができる。 ・相手に自分の考えが伝わるように表現を工夫するとともに、他者と自分の考えを比較しながらよりよい意見にしようと改善することができる。	・重要な部分に線を引かせるなど情報を的確に読み取る手立てを行う。 ・朝の読書の時間を充実させる。 ・授業において、ペアやグループ活動等協働的な学びを取り入れ、自らの考えを伝えたり、お互いの考えを深めあったりする場面を設定する。 ・ICT機器を活用して、生徒の考えを共有する場面を増やす。 ・教育特化型生成AI（スタディポケット）を活用し、学習のまとめを行ったり、疑問に思ったことやつまづいた問題の理解を深めたりする手助けをする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題に取り組み、期限内に提出できる。 ●各種テストにおいて、目標とする点数に向けて努力することに課題がある。	・習熟の程度に応じて、自分にできることを考え、粘り強く課題に取り組むことができる。 ・各授業において、めあてと対応した振り返りを行い、身についたこと、わからなかったことを把握し、次の学習につなげることができる。 ・自らの目標に応じて、学習計画を立てて実行することができる。	・生徒の習熟に合わせて、学習アプリ等を活用することで、個別最適化した学習を図る。 ・各授業において、めあてに対応した振り返りを行い、教師側は生徒の理解度を確認するとともに、授業改善につなげる。生徒側はその授業でできたことや身についたこと、考えたことなどを記録し、次の学びに繋げられるようにする。 ・朝の学習時間で学んだことが、各種定期テストの向上につながるよう課題を工夫する。			